



直峰通信

令和4年3月18日(金)発行

3月、雪解けが始まり、土の見えるところからは、ふきのとうが顔を出し始めました。分校の周りに目を向ければまだ1mほどの積雪がありますが、多くの生き物たちは雪の下でもしっかり生きて、春の準備をしています。安塚は今年も雪がたくさん降り、みなさん骨を折りました。ですが、この雪が春を一段と春らしく、春の喜びを何倍も膨らましてくれるように思います。



春の兆し 正門脇土手からの1枚

この「直峰学報」がお手もとに渡るのは、ちょうど3学期の終業式が終わる頃です。安塚分校にとっても、よい春を迎えるために、各学年や各係で今年度の振り返りをして、来たる令和4年度に向けて準備をしているところです。

今年度、安塚分校のさまざまな教育活動に御理解と御協力をいただき、心より感謝申し上げます。令和4年度から2、3学年のみの学校となりますが、学習面では引き続き一人一人に丁寧に基礎基本を指導し、各種行事を今年以上に工夫を凝らし、人とのつながりや協働を通して高校生活の充実感を体験させていきたいと考えております。今後とも御指導と御支援をいただきますようお願いいたします。

第5回卒業証書授与式

うらかな安塚の春の日差しのもと、11名の生徒が卒業しました。保護者の方々はじめ、ともに歩んだ教員が見守るなか、校長先生から一人一人に卒業証書が手渡されました。



校長先生からは「これからも学び続けよう、失敗を恐れることなく果敢に挑戦しよう、そして思いやりの心を大切にしよう」という3つの言葉を送っていただきました。在校生代表の森口さん(2年)は「先輩達の優しさを私たちが引き継ぎたい、次の舞台でもぜひ活躍を」との送辞を贈りました。激励の言葉を受け、卒業生代表外立さんは、高校での学びを一つ一つ丁寧に語り、感謝の言葉とともに「3年間でいただいた学びと経験を糧にそれぞれの人生を歩んでいきます」と決意を語りました。上級生らしい立派な卒業生答辞でした。

安塚分校での高校生活は少人数ゆえの物足りない面もあったと思いますが、同級生11人ゆえのお互いの親しさや関係の深さもあったはずです。これからの前途をぜひ力強く進んでいってほしいと願っています。

令和3年度学校自己評価について

安塚分校の教育目標に向けて計画した具体的方策について、令和3年度はおおむね実行することができたと評価しております。今年も新型コロナウイルス感染症の影響下にありましたが、2年度は中止した各行事を、3年度は来客なしの校内開催ではありましたが、実施することができました。生徒が知恵とアイデアを発揮し企画を練り、生徒が声を出して進行し、生徒が助け合って後始末を行う姿がありました。これからも感染症対策を継続しつつ、生徒の学校生活をなるべく普段通りに進めていかせたいと考えております。なお、10月に予定していた2年修学旅行は4年度に延期となりました。



学校の本分である授業では、各教科で継続して『学び合い』を活用し、学習目標の到達を目指し

た。今年度は特にタブレットや電子黒板の活用を進め、教員が操作して授業を行うだけでなく、生徒が自分で機器を操り意見を共有したり発表したりする機会を増やしました。これからも社会全体でICT機器の活用が進むはず。当校での活用はまだ初歩の段階です。授業で活用する上での問題点もいくつか指摘されましたので、職員研修を重ねて解決を図ろうと考えております。

いじめ防止や不登校への対処など、それぞれ複数の件数がありました。その都度迅速に、かつ組織的に対応を図り、すべて解決に近づいていると考えております。3年度はスクールカウンセラーとの連携が一層進み、専門的知見を生かした対処で改善の見られたケースが多くありました。行政の地域関係機関を含め、各組織との連携を大切に4年度も生徒支援を進めていきます。

学校スキー 2月25日

「雪国で育ち、この安塚の学校に通っているのだから」の第2弾、学校スキーを山影うるわしい晴天のもと実施しました。ほとんどが初心者だったスノーボード実習と異なり、スキーはほとんどが経験済みということもあり、実習中はお互いの弾んだ会話があちこちで聞かれました。安塚の豊かな自然のなか体を動かし、美しい景色を眺め、それぞれが雪国ならではの楽しみを満喫していたように見えました。



地域探究学習 3月10日

「雪国で育ち、この安塚の学校に通っているのだから」は体だけでなく知識の面でも、ということで、安塚在住の小林美佐子様(雪だるま財団理事長)をお招きし、安塚の地域おこしの御経験などを語っていただきました。地元での就職希望者が多い現状を踏まえ、この場所で生き生きと暮らしていくヒントを授けていただいたように思います。毎日通っていても案外知らなかったことやこれまでの数々の活動などをお聞きしたり、各自がこの地でやってみたいことを考える機会を与えてくださったり、雪国の暮らしや将来について、考えを深める時間となりました。最後の質疑での御回答、「人がいるから、人が手がけるから田んぼは美しくなる」という言葉が印象に残りました。



出前講座「骨髄バンク」について 3月2日

今年度は安塚分校保健体育科が地域の方を招いた出前授業を4回行いました。その最終回、「骨髄バンク」についての講座を開きました。齋木桂子様(骨髄バンクサポート新潟)をお招きし、骨髄の果たす役割や骨髄バンク制度の説明など、お話を伺いました。骨髄移植は骨を移植するものではないこと、輸血と同じように骨髄移植にも適合する型があり、ただしその型は非常に多くて、多くのドナー(提供者)を募る必要があることなど学びました。活動されている経験談や御自身の体験を語られるなど、貴重なお話でした。命の重みを感じるお話でした。スライドを通して伝わる映像は多くの生徒の心に響いたことと思います。行動を起こす一歩になってくれればと思います。



4月7日(木)が令和4年度の始業式となります。来年度もよろしく願いいたします。

新潟県立高田高等学校安塚分校

〔担当:教頭 沢田貴博〕

〒942-0411 上越市安塚区下方129番地
HP <http://www.takada-h.nein.ed.jp/>

電話 025-592-2306 FAX 025-592-3541
mail school@takakayszk-h.nein.ed.jp